

# 常時配信動画

下記の講演動画はイベント期間中 24時間いつでも視聴可能です

## 新プロダクト企画

**[AF1]**

**3D EMC設計はじめます！  
エレキ・メカの複合ノイズ問題を改善**

株式会社図研 事業本部  
SE統括部 第一SE部 第一SE課  
チーフエンジニア 野村 政司



試作・組立してから発覚するノイズ問題は、エレキ・メカの相互要素が複合され複雑化します。これら高度化した製品設計のEMC対策は、回路基板単体だけでなくメカを考慮して最適化できる設計ツールが必要となってきています。本セッションでは、EMC検証ツール『EMC Adviser』を拡張し、筐体・機構部品も加味した3D検証をご紹介します。

**[AF2]**

**デザインレビューにAIを！ ニューノーマル時代に  
求められる設計ナレッジ活用**

株式会社図研 事業本部  
SE統括部 第一SE部 第二SE課  
主任 高橋 絵美



普及が進むリモートワーク、開発期間の短縮、労働時間の削減など、今、働き方に大きな変化が求められています。この変化の中で、有識者の知見や必要な情報をどのように集めればよいでしょうか。ノウハウの消失を防ぎ、設計の質を維持・向上するためには、システムやAIを取り入れたノウハウ活用支援が鍵となります。本セッションでは、ナレッジ活用ソリューションである『Circuit DR Navi』と『Knowledge Explorer』の連携による「ニューノーマル」な時代に向けた新たなソリューションをご紹介します。

**[AF3]**

**ここまでできる！ ナレッジ活用による  
ハーネス検証業務のDX化推進**

株式会社図研 事業本部  
SE統括部 第二SE部 第一SE課  
本田 優里子



現状、ハーネス設計領域の検証において「ヒューズ/ワイヤの適合性」などCAD情報を活用してチェックしている範囲は限定的です。「設計規定書の準拠/過去不具合事象の対処（熱・ノイズのトレードオフなど）」については、試作での実機確認/対策を余儀なくされています。本セッションでは、設計ナレッジをDB化し、それらを利用して『E3.series』上で事前検証するデザインレビュー環境をご紹介します。

**[AF4]**

**お待たせしました！ 設計の自動化を支援する  
『E3.series 拡張パッケージ』誕生**

株式会社図研 事業本部  
SE統括部 第二SE部 山下 慎介



データベース型CAD『E3.series』では、これまでのお客様のご要求を具現化し新しい機能拡張パッケージをリリースしました。活用シーンに合わせて「成果物出力の自動化」「検図作業の自動化」「作図作業の自動化」をラインナップし、さらなる設計業務効率化に寄与します。本セッションでは、新製品『E3.series 拡張パッケージ』の活用による効果獲得の具体的なイメージについてをご紹介します。

**[AF5]**

**基板とケーブルを3D化したらどうなる？  
『XVL Studio Z』『XVL Studio WR』  
徹底活用術**

株式会社図研 事業本部  
SE統括部 第二SE部 第一SE課  
沖野 たまえ



一般的にエレキとメカの設計は、担当もCADも別々で、それぞれが厳しい制約条件で開発業務を行っています。『CR-8000』や『E3.series』と軽量3Dデータ『XVL』を連携することで、製品開発の共通言語となるシステムを実現しました。本セッションでは、エレキ・メカのコミュニケーションが必要なテーマを『XVL』によって解決し、フロントローディングを可能とするツールの活用シーン「絶縁距離などの電気的な検証」「基板間や装置間の配策検討」をご紹介します。

**[AF6]**

**手軽に「超上流」！【約束編】目標を必達する  
エレキ要求分析『GENESYS-CR』誕生**

株式会社図研 事業本部  
PI推進部 第二推進グループ  
白 賢娥



複雑さを増す製品開発では、品質の属人化や手戻りが課題となっています。そのため、設計目的の明確化と早期での実現性検討を行う「超上流」の具現化が重要です。本セッションでは【約束編】と題して、新製品『GENESYS-CR』による、設計のゴールおよび妥当性判断基準となるエレキ要求の分析についてご紹介します。誰でも、簡単にエレキ要求を整理でき、目標とズレなく設計を進めるためのアプローチをご紹介します。

**[AF7]**

**手軽に「超上流」！【結実編】約束をモノにする  
エレキプロトタイプング**

株式会社図研 事業本部  
PI推進部 第一推進グループ  
コンサルタント 松下 哲郎



複雑さを増す製品開発では、品質の属人化や手戻りが課題となっています。そのため、設計目的の明確化と早期での実現性の検討を行う「超上流」の具現化が重要です。本セッションでは【結実編】と題して、構想設計支援ツール『System Planner』を拡張し、多面的な実現性検証を限られた時間の中でもっと手軽により早く正確に行う設計見積手法をご紹介します。